

# 設立趣旨書

## 1 趣旨

21世紀は、ほんものの時代といわれている。経済的発展を第一義とした20世紀は、その目的のために、環境だけでなく、人々の心までを破壊していった。最近の信じがたい残虐な事件の数々を報道で見るにつけ、人と人との本当の信頼関係が希薄になってしまっている現実を目の当たりに感じている。

1999年、6月、札幌のYOSAKOIソーラン祭に参加した。「日本が最後に輸出できるのは、このパワーだ！」と感じた。踊り子と観客が完全に一体となった笑顔と、魂をゆさぶられる激しい踊り。この感動が、人の心を変える可能性を秘めているのではないかと感じ、よさこいチームの活動に本腰を入れた。「みれば元気がでる。踊れば勇気がわいてくる。みんなが主役のオンリーワン。」をモットーに5年半が経過した。

機が熟し、私たちは、特定非営利活動法人颯爽JAPANを設立することによって、今まで行なってきた、祭おこし、町おこし、人おこし、国際交流の活動実績を、より広範な社会貢献へと発展させることを決意した。その時、よさこいをはじめ、システムを持たない新しい文化を国内外共に発信していくためにも、その活動を支援する団体の結成が必要であると感じた。また、伝統をふまえた上での、新しい地域文化の創出と活性化、その担い手の育成の必要性を強く感じた。

踊りが言葉を超えて、ダイレクトに心と心が通じ合うたくさんの体験。よさこいに出会った人々が、からだの健康だけでなく、生きがいを見出し、ほんものの信頼で結ばれた人間関係を築き、こころの健康までも得ているという事実。指導・支援を要請される団体・学校が年々増加し、民間や行政から祭やイベントの監修などの要請が多くなるにつけ、その必要性を痛感するとともに、そのニーズに応えるために、特定非営利活動法人の設立が望ましいと考えている。

さらに、法人化をすることによって、メンバーの活動目標や社会的な位置付けが明確になり、安定的で継続的な活動へ発展できると考えている。

## 2 申請に至るまでの経過

1998年8月 映画「地球交響曲」の上映をはじめとするイベントを10代の子どもたちが企画・運営をすることによって、自分たちの可能性に自信をもってもらおうと母体である「ガイアの会」が結成された。

1999年3月 「Kinki颯爽」というよさこいチームの設立。設立当初は、「子どもの居場所づくり」というものだったチームの活動が、老人ホームや障害者施設、学校、各種団体や行政等からの演舞にとどまらない様々な依頼を受けていくにつれ、高齢者や一般のおとなにも必要とされている癒しと信頼、世代を超えた共育の場へと成長してゆく。

2003年11月 国際交流で訪問したイスタンブールで、我々の踊りに感激したトルコの人、「日本人がこんなに笑顔の素晴らしい国民だとは、知らなかった」という言葉を聞いた時、等身大の日本人を伝える、草の根の国際交流に使命を感じた。

2004年4月 日本発Y-JOP(YOSAKOI JAPAN ORIGINAL POWER'S)を上げた。

ジャンルを問わず、不特定多数の人々を巻き込んで、地球を笑顔の星にしていくために、今まで蓄積したノウハウや人材を活かし、チーム運営だけでなく、より広く、社会的ニーズの高いこれからのコミュニティづくり、まちづくりにも貢献したいと、特定非営利活動法人の設立に向け準備会が発足し、設立総会の準備に入る。

平成16年10月10日

特定非営利活動法人 颯爽 JAPAN

設立代表者

兵庫県神戸市東灘区住吉本町1丁目10番46 402号  
小城 有佳